

見学ポイント

① GAPハウス

『International GAP（国際的適正農業規範）対応の食料管理専門職業人の養成』事業により建設されました。GAPに基づいた学生実習を実施しています。



② 圃場

JGAPの管理点に基づいた木花フィールドルールにより、土壌流出を防ぐための不耕起地帯の設置など、管理・工夫がされています。

③ 注意看板

誰が見てもわかるように電気柵や崖の周辺では注意喚起を行っています。

④ 農薬保管庫

係ごとに管理をし、棚の中では農薬が万が一、漏れた場合に備え、トレイの設置や農薬の形状によって保管場所を分けています。

⑤ 農具庫

学生実習などの使用後の農具の紛失防止および整理整頓のために、各農具と収納場所にそれぞれ番号を付けています。



登録番号 450000007

木花フィールド（農場）
GAP見学マップ

⑥ 機械庫 2

農業散布用機械を主に置き、他の農業機械への農薬汚染を防いでいます。

⑦ 機械庫 1

収納場所をわかりやすく表示することで整理整頓を行い易くしています。また、整備スペースとの区別もはっきりつけています。



⑧ 農薬散布機洗浄場所

他の圃場や環境に影響の無い場所に専用の洗浄場所を設けています。また、洗浄方法も統一することにより洗浄不足による残留農薬事故を防いでいます。

⑨ 作業場

コンテナの片付け場所を明確にし、整理整頓を行っています。また、農薬保管庫からの動線をはっきり示すことにより、農薬による汚染を防いでいます。



⑩ 調製室

異物混入を防ぐため、作業時の帽子および手袋の着用やアクセサリを外すなど、調製室内でのルールを定めています。

木花フィールド（農場）のJGAP 認証取得

木花フィールドは、2011年12月13日に、大学としては日本で初めてJGAP認証を取得いたしました。

宮崎大学では、2011年4月から『GAP認証を取得した附属農場』を活用した実践的な『International GAP（国際的適正農業規範）対応の食料管理専門職業人の養成』を目指した学生実習を開始しています。

GAP認証により、1. リスク管理体制が改善され、2. 農場生産物の信頼性が高まる効果が期待されますが、第三者認証機関による認証には、農薬・肥料記録簿など帳票類の整備と運用、作業工程や学生実習対応のルールづくり、土壌分析、肥料置き場・選果場などの徹底整理等の改善努力が必要でした。

GAPは「適切で、効率的な農場管理」を実現するための手法であり、食品の安全確保などへ向けた適切な農業生産であったことを取引先や消費者に対して証明できることを表す基準です。

大学農場における実習教育において、GAPを正しく活用することは極めて重要だと考えています。